

仙台市医師会看護専門学校

令和6年度自己点検・自己評価表

目的：専修学校における自己評価表を用いて、本校の組織的・継続的な教育活動等の改善を図る

- 目標：1. 評価項目から、評価の視点が分かる
 2. 自己の教育活動を振り返る
 3. 改善点が見いだされ、今後の教育活動に活かすことができる

評価期間 令和6年4月～令和6年9月

実施者 3年課程教員12名、事務4名 計 16名

- 方法 1. 説明 令和6年10月の教務会にて
 2. 配布 令和6年10月の教務会にて
 3. 回収 令和6年10月28日(月)～31日(木)の間に 浅野事務課長に提出
 4. 結果 令和7年3月職員会で、結果を公表する

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

いずれかに○をつけ、備考欄に回答の理由をお書きください。特に、不適切と回答された

方には、今後の改善点の検討の資料となりますので、必ずお書きください。

1. 教育理念・目標

評価項目		区分	4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学校関係者評価
1	1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	教員	8	3	1	0	3.58		3.44			
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00			
2	1-2 学校における職業教育の特色は明確になっているか	教員	5	6	1	0	3.33		3.44			
		事務	2	1	1	0	3.25		4.00			
3	1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	教員	3	8	1	0	3.17	●学校が社会経済のニーズ等をどう捉えているかがよく分からない	3.22	18歳人口の減少や大学の看護系学部の定員増など、看護専門学校を取り巻く状況は厳しい。当面看護師不足は続くと思われ、厳しい環境の中でどのように生き抜いていくかを検討するために、社会や地域の状況を踏まえた本校のあり方を分析していく必要がある。また、分析等をもとに医師会と連携し、将来構想について検討、確認していく必要がある。	情報収集、分析をすすめていく。	まずは受験者の状況等現状の把握していく。看護学校は今後集約化していくと予想している。仙台市医師会としての将来構想委員会を実施していく予定となっている。外国人の入学なども考えていく必要があるのではないか。ある病院で外国人の助手を採用したと聞いた。雰囲気があかるくなっていると報告されていた。外国語を入れていくのは人材不足を補う意味でもあっていい方向かもしれない。
		事務	0	3	0	1	2.50	●どういう構想を抱いているのか知らない	3.50			
4	1-4 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	教員	0	8	4	0	2.67	●保護者の認識・理解度を把握できていない ●特に保護者に周知されているか不明 ●保護者会など開催し始めているが、いまいち保護者の理解が不十分のような気がする	2.78	学校についての説明は入学時の保護者説明会と2年次のナースングセレモニー後の説明会の2回となっている。保護者全員が対象ではないことから理念、目的・人材育成像について学生からの情報、ホームページからの情報しかない保護者も一定数いることになる。原級留年や退学、休学が増えてきておりその理由のひとつとして親の思いと学生の思いのずれがあること、単位取得に関する認識のずれ等がある。保護者会のアンケートについては目的の明確化と評価、フィードバックが課題である。	オープンキャンパスでの保護者向け説明会、保護者へのアンケートを実施していく。事前登校時の説明内容については、書類の書き方、費用のことに偏っている学生と一緒に頑張っている学校づくりをお願いしたい。	社会人の入学生を受け入れていくこともひとつの方向性と考え、迷っている人たちの背中を押すような募集活動をお願いしたい。保護者および在校生へのアンケートなど目的や内容を自己評価に活かせるよう改善していけると良い。
		事務	1	3	0	0	3.25		3.50			
5	1-5 各学科の教育目標、人材育成像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	教員	2	8	1	0	3.09		3.00			
		事務	0	3	1	0	2.75		3.50			
集計		教員	18	33	8	0	3.17		3.18			
		事務	6	11	2	1	3.10		3.70			

II. 学校運営

評価項目		4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学校関係者評価	
6	II-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	教員	1	9	2	0	2.92		2.89		<p>は、なぜそうするのかという意義や目的を共有することが重要と考える。枝葉のことだけでなく、本質の議論を大切にしているかどうか。組織の風通しを良くする。個々の教職員の話をよく聞きよりよい学校にしてほしい。倫理規程、ハラスメント防止規程は早急に整備していくべきである。</p>	
		事務	2	2	0	0	3.50		3.50			
7	II-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	教員	1	10	1	0	3.00		3.11			
		事務	2	2	0	0	3.50		3.50			
8	II-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	教員	0	5	7	0	2.42	<ul style="list-style-type: none"> ●組織図上は明確になっているが、それが有効に機能しているかは疑問 ●有効かという点 ●有効に機能しているかは疑問 ●意思決定の際、柱となるものが無く困惑することがある 	2.67	<p>学校としての意思決定システムは職員会にて説明した。やや不適切と評価している教職員が多い。</p> <p>意思決定機能が有効に機能している状態をどうとらえるのが難しい。意思決定において学校または教務としての方針や方向性がはっきりしていないと考えている教職員がいる。</p>		有効な意思決定システムについては個人での解釈が違ふ。規程に則り運営されているが、決定事項や協議事項について伝達をしっかりとしていく。また、教務会等での決定事項については、共通理解の徹底を進める。
		事務	1	1	2	0	2.75		3.50			
9	II-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	教員	5	7	0	0	3.42		3.33			
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00			
10	II-5 教務・財務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか	教員	0	8	4	0	2.67	<ul style="list-style-type: none"> ●決定事項の共通理解度など課題が多いと思う ●意思決定システムとは 	2.78	<p>学校としての意思決定システムは職員会にて説明した。意思決定システムについても個々の捉え方に相違がある。</p> <p>個人の価値観により決定事項の解釈がずれてしまうことがあり、決定事項の共通理解という点でも課題がある。</p>		会議での決定事項は会議の終了時に全員で確認し、共通理解する。
		事務	0	3	1	0	2.75		3.50			
11	II-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	教員	0	7	4	0	2.64	<ul style="list-style-type: none"> ●コンプライアンス体制とは何を指しているのか分かりにくい ●何を指しているのか 	2.67	<p>用語の理解や業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制とはどのようなことをさすのが明確でない。</p> <p>明確なコンプライアンス体制はなく、学則、就業規則、個人情報保護規定等を基準としている。倫理規定やハラスメント防止規程等の整備が必要である。</p>		用語の共通理解を進めていく。また、現在の取り組みや実施されている現状を明文化し、周知していく。倫理規定、早急にハラスメント防止規定の整備に取り組む。
		事務	0	3	0	1	2.50	<ul style="list-style-type: none"> ●どういう体制なのか知らない 	2.50			
12	II-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	教員	2	9	1	0	3.08		2.78			
		事務	2	2	0	0	3.50		3.50			
13	II-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教員	0	6	6	0	2.50	<ul style="list-style-type: none"> ●データ管理一元化など進めていくことで改善していけると思う ●情報システム化に向かっていと思うが、運用に振り回されると効率化に繋がるか不透明 	3.00	<p>業務の内容の把握と情報管理システムのスムーズな運用のための調整が必要</p>	運用のための役割分担と作業工程を明確にして、情報システムの効率化を図る。	
		事務	0	1	3	0	2.25		2.00			
集計		教員	9	61	25	0	2.83		2.90			
		事務	10	15	6	1	3.06		3.25			

III. 教育活動

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学校関係者評価
14	III-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教員	1	10	1	0	3.00		2.89			
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00			
15	III-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修年年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教員	1	8	3	0	2.83	●看護技術は授業時間が足りない ●学習時間とは何を指すのか分からない ●初めてのカリキュラムなので、時間的にも不足していると感じる部分もある	3.00			
		事務	2	2	0	0	3.50		3.50	カリキュラムを構築する際には、看護師養成所等指定規則ガイドラインに則っている。カリキュラムの運営においては、改善しなければならない点もでてきている。評価項目が理解できない。看護学校に特化した質問ではないため、表現がわかりづらくなっている。コンセンサスが得られているか疑問		
16	III-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	教員	0	11	1	0	2.92	●2年目になり実施することで学科目の順序など検討必要などところも出てきていると考える。いずれカリキュラム評価が必要 ●もう少し検討が必要だと思う	3.00			
		事務	3	1	0	0	3.75		3.50			
17	III-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教員	0	7	5	0	2.58	●具体的にどのようなことなのか分からない	3.11			
		事務	2	2	0	0	3.50		3.50		卒業生が出た時点でのカリキュラム評価の実施が重要。そのための準備を進めていく。評価項目の共通理解を進めていく、または自己評価の方法をどうしていくか検討していく。	
18	III-5 関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	教員	0	4	8	0	2.33	●連携していたかは不明。見直しはまだ行われていない ●連携という点 ●具体的にどのようなことなのか分からない	2.67	3年課程に移行して2年目であるため、カリキュラムの見直しはできていない。今後カリキュラム評価を実施していく。カリキュラムの作成にあたっては厚生労働省の看護師養成所の運営に関する指導ガイドラインに則っており、業界団体や関連施設の求める人材や能力を反映していると考え。連携が不十分としている教職員が何を求めているか明確にしていく必要がある。		
		事務	2	1	1	0	3.25		3.50			
19	III-6 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	教員	0	8	4	0	2.67	●具体的にどのようなことなのか分からない	2.78	1と評価している職員が1名いるが、評価理由について記載がなく、課題が出せない。		
		事務	1	2	0	1	2.75		3.50	具体的などのようなことかわからないとしている教員もいた。看護については、臨地実習の時間が多く、また、指導ガイドラインにより体系ができていく。実習施設との連携を取りながら実習をすすめている。インターンシップは実施していない。評価項目について解釈の違いがあるのかもしれない。		カリキュラム評価は計画的に進めてもらいたい。人材育成については病院でも課題であるが、こちらも計画的に実施していく必要がある。時間のない中自己研鑽は大変と思うが、研究等も進めていく必要があるだろう。
20	III-8 授業評価の実施・評価体制はあるか	教員	1	6	5	0	2.67	●検討中 ●科目としての評価も必要ではないか「身体と心」「地域医療論」の評価はこのままで良いのか	2.67	授業評価は昨年度より進めている。今年度は、評価表を改訂して実施予定。評価表や方法を評価し、今後ブラッシュアップしていく予定。評価体制については学校として集計や傾向の分析等は行っておらず、教員本人が授業の改善に使用している。この点についても今後検討していく必要がある。	授業評価表の検討をしながら、進めていく。	
		事務	2	1	1	0	3.25		3.50			
21	III-9 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	教員	3	7	2	0	3.08		2.67			
		事務	3	1	0	0	3.75		3.00			
22	III-10 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	教員	4	8	0	0	3.33		3.56			
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00			
23	III-11 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	教員	1	8	3	0	2.83		3.00			
		事務	2	1	1	0	3.25		3.50			
24	III-12 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	教員	1	6	5	0	2.67	●実習に向けては配置不十分ではと懸念有り	2.78			
		事務	2	1	1	0	3.25		3.00			
25	III-13 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	教員	0	5	7	0	2.42	●業務内容を考えたときに教員数は確保されているとは言えない ●ない	2.67	ここ数年で教員の退職が多数でおり、また、定年退職を控えている教員も数名いる状況となっている。また、実習施設の多様化等により教員の必要数も増している。教員の確保と人材育成は喫緊の課題と言える。		
		事務	1	1	2	0	2.75		3.00			
26	III-14 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	教員	0	4	8	0	2.33	●個人の意識に寄るところが大きく、組織としての取り組みが見えない ●個々に任されている部分が多い	2.56			
		事務	1	2	1	0	3.00		2.50	研修等は自己研鑽というかたちで教員一人ひとりに委ねられている状況である。学校としての教職員の能力開発、人材育成をどのようにしていくか方向性を出していく必要がある。組織の長期的な展望に立ち管理者、メンバー双方で考えていく必要がある。研究授業もいずれ取り入れていく必要があるものとする。業務に追われる毎日、教材研究等の時間確保が難しい。		人材育成は本校の喫緊の課題である。組織の長期的な展望のもと、管理者がリーダーシップをとり、メンバーからの意見や提案を受けながら対応していく。教員の教材研究や授業の準備の時間確保については対応していく必要がある人材育成と併せて検討していく。
27	III-15 職員的能力開発のための研修等が行われているか	教員	0	5	7	0	2.42	●III-14と同じ ●学内での研修なども行いたい、現在は余裕がないのが現状 ●個々に任されている部分が多い	2.78			
		事務	0	3	0	1	2.50		2.50			
集計		教員	12	97	59	0	2.72		2.87			
		事務	27	20	7	2	3.29		3.32			

IV. 学修成果

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学校関係者評価
28	IV-1 就職率の向上が図られているか											
29	IV-2 資格取得率の向上が図られているか											
30	IV-3 退学率の低減が図られているか	教員	0	4	8	0	2.33	●具体的に図られているかという疑問が残る ●3年課程になったばかりで、退学率がよく分からない	3.11	退学率は1回生で2.8%、2回生で3.7%となっている。休学者も増えてきており、原級留年者も複数出ている状況である。退学者の退学理由、背景等から必要な対策を講じていく必要がある。看護師になることを簡単に断念する傾向もあるため、入学生の選考方法も考えていく必要がある。	退学理由を丁寧に蓄積していく。 退学となる前に必要な対策を講じていく。	退学率の低減に向けて学生の状況をできるだけ早くにキャッチし、面談等適切な対応を進めてもらいたい。退学理由の分析が重要である。学生の卒後の状況については、就職病院、施設との連携を進めていってもらいたい。病院としてもぜひ協力したい。
		事務	1	2	0	1	2.75		3.00			
31	IV-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	教員	0	4	7	0	2.36	●評価するシステムがない ●していない ●全体的な把握は出来ておらず、現段階で仕組みもない	2.50	令和7年度には3年課程で初めての卒業生が出ていくタイミングで卒業生の動向を把握し、カリキュラムの評価・修正へとつなげていく必要がある。 1と評価している理由がないため、判断が難しい。	卒業生の動向の把握、就職先との連携について検討を開始していく。	
		事務	0	2	1	1	2.25		2.50			
32	IV-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか											
集計		教員	0	8	15	0	2.35		2.82			
		事務	1	4	1	2	2.50		2.75			

V. 学生支援

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学校関係者評価
33	V-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	教員	2	9	1	0	3.08		3.00			
		事務	2	1	1	0	3.25		4.00			
34	V-2 学生相談に関する体制は整備されているか	教員	4	8	0	0	3.33		3.33			
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00			
35	V-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	教員	5	7	0	0	3.42		3.33			
		事務	1	3	0	0	3.25		3.50			
36	V-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	教員	5	6	1	0	3.33	●健康管理の全体を把握している人が居て欲しい	3.44	健康管理については、生活支援、実習調整者、感染健康管理係が担当している。役割分担が明確でないことがひとつの原因と考えられる。	それぞれの役割を明確にしていく。	
		事務	2	1	0	1	3.00	●なし	2.50			
37	V-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	教員	0	7	5	0	2.58	●ない ●課外活動についての議論はされていないのでは	2.67	学生の課外活動の議論はされていない。		役割は明確にしていてもらいたい。全体的に問題がないようだ。学生との面談等により必要な支援を見きわめてほしい。学生のニーズとのマッチングが必要である。
		事務	1	2	0	1	2.75	●なし ●オープンキャンパスやその他の行事への協力が課外活動として評価できるとよい	2.50			
38	V-6 学生の生活環境への支援は行われているか	教員	2	9	1	0	3.08		3.11	生活環境をどこまでの範囲とするかわからない。現状では奨学金の支援は行っている。		
		事務	2	1	0	1	3.00	●なし	2.50			
39	V-7 保護者と適切に連携しているか	教員	2	5	5	0	2.75	●適切な連携をどのように考えれば良いかわからない ●連携までは出来ていないと思う	2.89			
		事務	1	2	1	0	3.00		2.50			
40	V-8 卒業生への支援体制はあるか											
41	V-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	教員	2	6	4	0	2.83	●社会人のニーズが把握されているのか分からない ●何を指すのか分からない	2.78			
		事務	1	2	1	0	3.00		3.50			
42	V-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	教員	1	4	7	0	2.50	●教育としての連携は行えているかわからない ●ない	2.44	学校として連携の方針が定まっていない。進路ガイダンスには積極的に参加し、今年度は看護師の仕事についても高校での講義を行った。特定の学校との連携は、学校の選定、連携の方法、担当者の問題等ハードルが高い部分がある。		
		事務	2	1	0	1	3.00	●小学校行事への協力は職業教育と言えるか	3.00			
集計		教員	23	61	24	0	2.99		3.00			
		事務	15	14	3	4	3.11		3.11			

VI. 教育環境

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度評価	課題	改善策	学区関係者評価
43	VI-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	教員	2	9	1	0	3.08	●IT機器がスムーズに稼働しないときが多い	2.89			
		事務	1	3	0	0	3.25		3.00			
44	VI-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	教員	0	9	3	0	2.75	●実習施設のみ ●議論が必要なのではないか	2.78	学校として海外研修の必要性を感じていない。		時代に即した工夫や対応がされている。学生とも議論し教育体制、サポート体制を整えてほしい。
		事務	1	2	0	1	2.75		2.50			
45	VI-3 防災に対する体制は整備されているか	教員	7	4	1	0	3.50		3.44			
		事務	4	0	0	0	4.00		4.00			
集計		教員	9	22	5	0	3.11		3.04			
		事務	6	5	0	1	3.33		3.17			

VII. 学生の受け入れ募集

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度 評価	課題	改善策	学校関係者評価	
46	VII-1 学生募集活動は、適正に行われているか	教員	6	5	1	0	3.42		3.56			定員に近い状態であり、うまくいっていると思われる。LINE等のSNSの活用も進めていくと学生の応募につながると思われる。	
		事務	3	1	0	0	3.75		4.00				
47	VII-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	教員	4	7	1	0	3.25		3.11				
		事務	3	0	1	0	3.50		3.50				
48	VII-3 学納金は妥当なものとなっているか	教員	4	8	0	0	3.33		3.56	1の理由が不明。 今後物価の上昇に対応しきれない可能性はある。			
		事務	3	0	0	1	3.25		3.50				
	集計	教員	14	20	2	0	3.33		3.41				
		事務	9	1	1	1	3.50		3.67				

VIII. 財務

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度 評価	課題	改善策	学校関係者評価		
49	VIII-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	教員	1	8	3	0	2.83	●それほど情報も無いので不明	2.89	概ね良好と考えるが、今後の物価上昇等に注視していく。		概ね良好である。		
		事務	1	1	1	1	2.50	●物価等の上昇が学生納付金のみでは補えない	3.50					
50	VIII-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	教員	2	9	1	0	3.08		3.11					
		事務	3	1	0	0	3.75		3.50					
51	VIII-3 財務について会計監査が適正に行われているか	教員	7	4	1	0	3.50		3.44					
		事務	4	0	0	0	4.00		4.00					
52	VIII-4 財務情報公開の体制整備はできているか	教員	7	4	1	0	3.50		3.00					
		事務	4	0	0	0	4.00		3.50					
	集計	教員	17	25	6	0	3.23		3.11					
		事務	12	2	1	1	3.56		3.63					

IX. 法令等の遵守

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度 評価	課題	改善策	学校関係者評価	
53	IX-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	教員	5	6	0	0	3.45		3.56			自己点検・自己評価の効果的なシステムづくりをお願いしたい。	
		事務	4	0	0	0	4.00		3.50				
54	IX-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	教員	5	7	0	0	3.42		3.44				
		事務	2	1	1	0	3.25		3.50				
55	IX-3 自己評価の実績と問題点の改善を行っているか	教員	2	4	6	0	2.67	●問題点が明確になっていない ●自己評価項目の解釈が人それぞれであることと、低評価の理由が明らかではないため ●改善の途中だと思いが、まだ実感は出ていない	2.44	評価項目の解釈が難しく、教職員それぞれの視点で評価がされている。評価項目特に不十分とした評価理由がないことが多く、分析に困ることが多い。また、評価の基準となるデータも不明確であることから自己評価自体の信頼性が担保できていない危険性がある。自己評価のあり方については今後も検討していく必要がある。	評価の指標がなく分析が難しい。自己点検・自己評価の方法を検討し、学校としての課題、問題点、具体的な実施計画が見えるようにしていく。PDCAサイクルがしっかりと可視化できるような仕組みづくりに取り組みたい。		
		事務	3	0	1	0	3.50		3.00				
56	IX-4 自己評価結果を公開しているか	教員	5	4	3	0	3.17		3.00				
		事務	4	0	0	0	4.00		4.00				
	集計	教員	17	21	9	0	3.17		3.11				
		事務	13	1	2	0	3.69		3.50				

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目			4	3	2	1	集計	備考	R5年度 評価	課題	改善策	学校関係者評価
57	X-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	教員	2	8	2	0	3.00		2.56	地域の防災訓練への参加、小学校の体験学習、学校祭での同窓会主催の講演会、周産期福祉避難所など地域への貢献に積極的に取り組んできた。1の評価は周知が不足しているということと考えてよいのか。	今後も学校として協力できることは積極的に取り組んでいく。	学校のホームページなどからは地域との交流に努力していることがわかる。継続して行っていただきたい。ボランティアについては、以前検討したことがあったが、準備期間として進められなかった。学生からの要望もあるので、進めてもらいたい。小さなことでもよいので進めていただければ良い。
		事務	2	1	0	1	3.00	●災害時の周産期福祉避難所開設への協力は社会貢献にあたりと考える	2.50			
58	X-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	教員	1	2	8	1	2.25	●行われていない ●していない ●支援をしていないが、議論が必要	2.00	ボランティアについての議論はしていない。検討の余地はあるが、安全対策などの課題も多い。就職活動等の一環としてニーズの把握も必要。	ボランティアについては学生のニーズを把握し、学校として支援できることを時間をかけて探っていく。	
		事務	1	2	0	1	2.75	●していない ●オープンキャンパスやその他の行事(オープンまつり)への協力が課外活動として認識されると良い	2.00			
59	X-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等含む)の受託等を積極的に実施しているか	教員	0	4	7	1	2.25	●行われていない ●していない ●分からない	2.00	公開講座に関しては同窓会主催の講演会を開催した。今後も継続予定。教育訓練の受託に関しては、検討したことがない。地域にニーズも把握していない。	近隣小学校との連携、地域活動への参加、同窓会との連携強化などにより地域との連携を少しずつすすめていく。	
		事務	1	2	0	1	2.75	●していない ●着学祭での同窓会による講演会開催への協力は地域に対する公開講座にあたる	2.00			
	集計	教員	3	14	17	2	2.50		2.19			
		事務	4	5	0	3	2.83		2.17			